

社会(歴史的分野)

I 教科、種目の観点

資料作成に当たっては、共通観点の他に、学習指導要領(平成29年3月)に示された各教科の目標や内容等に即して検討し、教科独自の観点を定めた。

1 教育基本法の理念や長崎県教育方針の趣旨・内容を踏まえて、豊かな人間性の育成を図る上での特長		
共通 観点	(1)	教科の特質に応じて、「教育の目的」及び「教育の目標」の達成に資する内容、構成となっているか。
	(2)	ふるさと長崎の伝統・文化や歴史、自然について理解を深める学習に生かせる題材が扱われているか。
2 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて、確かな学力の育成を図る上での特長		
共通 観点	(1)	基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得することができるよう工夫されているか。
	(2)	知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されているか。
	(3)	主体的に学習に取り組む態度を身に付けることができるよう工夫されているか。
教科 独自 観点	(4)	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせることができるよう工夫されているか。
	(5)	既習事項を基に、生徒自身が設定した学習課題によって学びを深めることができるよう工夫されているか。
	(6)	我が国の歴史に対する愛情や、国際協調の精神を養うことができるよう工夫されているか。
3 学習効果や使いやすさ、見やすさ(ユニバーサルデザイン)等の観点からの表記・表現や体裁の特長		
共通 観点	(1)	文章は、分かりやすく、質・量ともに適切な記述となっているか。
	(2)	写真、挿絵、図表などは、学習意欲を高めるとともに、学習内容との関連や学習効果に十分配慮されているか。
	(3)	レイアウトや色彩、文字の大きさ、挿絵の活用、紙質、製本等については、適切に配慮されているか。

II 選定資料利用上の留意点

- 資料の作成に当たっては、設定した観点ごとに、特に目立った事柄を取り上げること。
- 利用に際しては、全体を通して総合的に判断し、各教科書の特色をとらえるとともに、地域の実態、その他の条件を考慮して、適正な採択のための資料とすること。
- 前記の観点と次表の観点、具体項目とは、対応させて読み取ること。

Ⅲ 具体項目

社会（歴史）

観 点		発 行 者	東 書	教 出
1 教育基本法の理念や長崎県教育方針の趣旨・内容を踏まえて、豊かな人間性の育成を図る上での特長				
(1)	教科の特質に応じて、「教育の目的」及び「教育の目標」の達成に資する内容、構成となっているか。		時代ごとに特徴的な資料や写真を数多く掲載し、読み取らせ、考えさせることで、我が国の歴史や伝統文化に対する理解を深め、それらを大切にしようとする心情や態度を養うことができるよう配慮されている。	特設ページで、災害の危機に立ち向かった人々や、女性の人権、一揆について取り上げることで、人権思想や社会の課題に目を向け、主権者として社会に参画する意識を高めることができるよう配慮されている。
(2)	ふるさと長崎の伝統・文化や歴史、自然について理解を深める学習に生かせる題材が扱われているか。		メディアの発達について、孫文を支援した「梅屋庄吉」が取り上げられていたり、日本のエネルギーの変遷のコーナーで、「軍艦島」が取り上げられていたりしている。	受け継がれてきた伝統や文化として、「長崎くんち」が取り上げられていたり、鎖国下における長崎の貿易について、「唐人屋敷」や「オランダ商館」が取り上げられていたりしている。
2 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて、確かな学力の育成を図る上での特長				
(1)	基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得することができるよう工夫されているか。		学習した重要語句の確認を行う「チェック」と、要約や説明を行う言語活動の「トライ」、「スキルアップ」で調べ学習の手順を示すことで、基礎的・基本的な知識を習得することができるよう工夫されている。	「学習課題」や「時代スケール」の提示、毎時間ごとに学習を振り返る「確認」と学習内容を説明する「表現」を設けることで、基礎的・基本的な知識・技能を習得することができるよう工夫されている。
(2)	知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されているか。		章末の「深めよう」で考えを整理する場を設定したり、「みんなでチャレンジ」で「話し合い」の場を設定したりすることで、思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されている。	「THINK!」「TRY」「歴史の技」「学習のまとめと表現」で、年表によるまとめ、地図や資料を使った表現活動を設定することで、思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されている。
(3)	主体的に学習に取り組む態度を身に付けることができるよう工夫されているか。		章のはじめに、各時代の特色を示す資料と探究課題を提示し、章末のまとめの活動やコラム「もっと知りたい!」を設定することで、課題解決的な学習に主体的に取り組むことができるよう工夫されている。	「LOOK!」や導入資料・中心資料では学習のきっかけや追究の中心となる資料、「歴史の窓」では学習に関するコラムを提示することで、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。
(4)	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせることができるよう工夫されているか		学習の様々な場面で、「みんなでチャレンジ」の活動を設け、テーマに基づいて考える活動を設定し、その後の学習につなげることで、歴史的な見方・考え方を働かせることができるよう工夫されている。	「歴史にアプローチ」で、小学校からの接続を踏まえて見方・考え方を示すことで、各章の学習で、見方・考え方を働かせながら学習を深めることができるよう工夫されている。
			「見方・考え方」のコーナーを設け、「時期や年代」「推移」「比較」「相互の関連」「現代とのつながり」の視点を示すことで、歴史的な見方・考え方を働かせることができるよう工夫されている。	「歴史の技」や「Q」、各時間の最後に設けた「表現」、各章末の「学習のまとめと表現」の中で問いを設けることで、歴史的な見方・考え方を働かせることができるよう工夫されている。
(5)	既習事項を基に、生徒自身が設定した学習課題によって学びを深めることができるよう工夫されているか。		「地域の歴史を調べよう」では、身近な地域の歴史について調査をする事例を取り上げて示すことで、設定した学習課題を追究し、学びを深めることができるよう工夫されている。	単元ごとに設定されている「歴史を探ろう」では、エピソードを紹介することに加え、「TRY」で、資料を基に考えさせる活動を取り入れることで、学びを深めることができるよう工夫されている。
			各章のまとめの活動で、思考ツールを用いて問いを解決する活動を設けることで、学びを深めることができるよう工夫されている。	「THINK!」では、資料を読み解く視点を問いの形で段階的に示すことで、学びを深めることができるよう工夫されている。
(6)	我が国の歴史に対する愛情や、国際協調の精神を養うことができるよう工夫されているか。		「資料から発見!」では、絵巻物や浮世絵などの資料を提示することで、当時の人々の生活や文化についての理解を深め、我が国の歴史に対する愛情を育むことができるよう工夫されている。	「歴史を探ろう」では、我が国の偉人が国内外で大きな功績を残したことを紹介することで、我が国の歴史に対する愛情を育むことができるよう工夫されている。
			「もっと知りたい」で、「エルトゥール号遭難事件」や「命のビザ」など取り上げることで、我が国と世界各国とのつながりに気付かせ、国際協調の精神を養うことができるよう工夫されている。	「歴史を探ろう」で、領土をめぐる周辺諸国との間に残された課題について歴史的背景を紹介し、解決策を考えさせることで、国際協調の精神を養うことができるよう工夫されている。
3 学習効果や使いやすさ、見やすさ（ユニバーサルデザイン）等の観点からの表記・表現や体裁の特長				
(1)	文章は、分かりやすく、質・量ともに適切な記述となっているか。		平易な表現で、内容のバランスに配慮した文章の量にすることで、分かりやすくなるよう配慮されている。	平易な表現で、出来事の関係性が捉えやすい文章を多くすることで、学習内容を理解しやすくなるよう配慮されている。
(2)	写真、挿絵、図表などは、学習意欲を高めるとともに、学習内容との関連や学習効果に十分配慮されているか。		多くの資料で、他分野や他教科との関連を示したり、世界遺産や国の指定文化財と分かるようなマークを付けたりすることで、学習効果を高めることができるよう配慮されている。	導入のページに大きな資料を掲載し、資料を読み取る視点を質問形式で示したり、小学校で学習した人物が分かるように表記したりすることで、学習効果を高めることができるよう配慮されている。
(3)	レイアウトや色彩、文字の大きさ、挿絵の活用、紙質、製本等については、適切に配慮されているか。		フォントや資料掲載部分に背景色を入れたり、カラーユニバーサルデザインに対応したりすることで、文字やグラフなどが読みやすくなるよう配慮されている。	レイアウトや配色、書体などを工夫したり、資料の背景色を統一したり、時代ごとに強調される場所が分かりやすいように配色を工夫したりすることで、読みやすくなるよう配慮されている。

観 点		発 行 者	帝 国	山 川
1 教育基本法の理念や長崎県教育方針の趣旨・内容を踏まえて、豊かな人間性の育成を図る上での特長				
(1)	教科の特質に応じて、「教育の目的」及び「教育の目標」の達成に資する内容、構成となっているか。	課題に対する先人達の努力や工夫の事例を多くのコラムで掲載し、最終単元でこれからの社会を構想させることで、持続可能な社会の形成者としての意識を高めることができるよう配慮されている。	「歴史へのアプローチ」や「歴史を考えよう」では、テーマを設定して歴史的に深く掘り下げさせることで、幅広い知識と教養を身に付けるとともに、創造性を培うことができるように配慮されている。	
(2)	ふるさと長崎の伝統・文化や歴史、自然について理解を深める学習に生かせる題材が扱われているか。	島原・天草一揆について、「天草四郎」の絵とともに、詳しい解説が示されていたり、開国後の貿易について、長崎の商人「大浦慶」が取り上げられたりしている。	世界遺産について「端島（軍艦島）」の写真と「潜伏キリシタン関連遺産」の地図が示されていたり、明治期のキリスト教解禁について「大浦天主堂」を取り上げ、布教活動の再開が示されたりしている。	
2 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて、確かな学力の育成を図る上での特長				
(1)	基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得することができるよう工夫されているか。	「技能をみがく」で、様々なテーマを設定し、情報収集、文献の読み取り、レポート作成・発表などの手順を具体的に示すことで、調べまどめる技能を習得することができるよう工夫されている。	「用語解説」や「コラム」を掲載することで、知識を習得できるよう工夫されている。また、「身近な地域を調べよう」において、発表までの手順を詳細に示すことで、まとめる技能を習得できるよう工夫されている。	
(2)	知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されているか。	「TRY」で、社会的事象の整理から表現までの手順、「章の振り返り」で、時代の特色の考察についての手順を具体的に示すことで、思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されている。	「Q」や「ステップアップ」「歴史を考えよう」で、社会的事象を比較したり、関連を見いだして考えさせたりすることで、思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されている。	
(3)	主体的に学習に取り組む態度を身に付けることができるよう工夫されているか。	章のはじめの「タイムトラベル」では、時代の特色を捉える問いや解説、キャラクターのせりふなどを示すことで、既習事項と関連付けながら主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。	章の導入だけではなく、各資料にも「問い」を設定して、章末で内容をまとめる課題に取り組ませることで、「見方・考え方」を働かせ、見通しをもって主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。	
(4)	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせることができるよう工夫されているか	毎時間、「確認しよう」の問いを設けることで、知識の確実な習得を促し、次の「説明しよう」の問いにつなげることで、歴史的な見方・考え方を働かせることができるよう工夫されている。	写真・グラフ・資料等のそれぞれに問いを提示することで、読み取りの際に着目したい視点や追究したい内容を把握して、歴史的な見方・考え方を働かせることができるよう工夫されている。	
		「見方・考え方アイコン」を設け課題解決の視点を示すことで、社会的な見方・考え方を働かせることができるよう工夫されている。	「地域からのアプローチ」において、それぞれの都市の特徴を、地名・食・史跡・都市のつくり等の様々な視点から読み解かせることで、歴史的な見方・考え方を働かせることができるよう工夫されている。	
(5)	既習事項を基に、生徒自身が設定した学習課題によって学びを深めることができるよう工夫されているか。	各章の導入において、章・節の問いが設定され、その問いに迫る学習課題が毎時間設定されるなど、問いを構造化することで、学びを深めることができるよう工夫されている。	「歴史へのアプローチ」では、一つのテーマについて様々な視点から歴史的背景や影響を詳しく紹介することで、学びを深めることができるよう工夫されている。	
		「アクティブ歴史」では、課題に粘り強く向き合う姿勢や合意形成を目指す態度などが、身に付けられるような活動を取り入れることで、学びを深めることができるよう工夫されている。	「歴史を考えよう」では、歴史を多面的・多角的に捉えるための資料が提示され、それに対して問いを設定することで、学びを深めることができるよう工夫されている。	
(6)	我が国の歴史に対する愛情や、国際協調の精神を養うことができるよう工夫されているか。	「人物コラム」で、国内外で日本に大きな影響を与えた人物を多く取り上げることで、先人の思いや功績について学び、我が国の歴史に対する愛情を深めることができるよう工夫されている。	「地域からのアプローチ」で、多くの都市の各時代の歴史の展開を取り上げることで、地域の歴史と文化財保護の視点から考え、我が国の歴史に対する愛情を育むことができるよう工夫されている。	
		「未来に向けて」では、「孫文と神戸のかかわり」や「日本人戦犯の解放」を取り上げるなど、互いの考えや文化を尊重することで、国際協調の精神を養うことができるよう工夫されている。	「世紀の世界」で、地図やイラストを用いて説明し、世界の状況を大観して理解することで、世界各国の伝統や文化を尊重する態度を養うことができるよう工夫されている。	
3 学習効果や使いやすさ、見やすさ（ユニバーサルデザイン）等の観点からの表記・表現や体裁の特長				
(1)	文章は、分かりやすく、質・量ともに適切な記述となっているか。	歴史上の出来事について、時系列や変容について分かりやすい文章でまとめることで、歴史的な見方・考え方を働かせた考察ができるよう配慮されている。	因果関係を重視した詳しい説明で分かりやすく記述したり、意味を捉えにくい用語は「用語解説」で紹介したりすることで、歴史の概要を理解できるよう配慮されている。	
(2)	写真、挿絵、図表などは、学習意欲を高めるとともに、学習内容との関連や学習効果に十分配慮されているか。	イラストが豊富であり、地図上に資料や貿易品などの写真を掲載したり、「タイムトラベル」では、資料を読み解く視点を質問形式で示したりすることで、学習意欲を高めることができるよう配慮されている。	各章のはじめに、年表やその時代に関連のある資料を多く掲載したり、「世紀の世界」では、各時代の世界のできごとを地図とイラストでまとめたことで、当時の様子を大観できるよう配慮されている。	
(3)	レイアウトや色彩、文字の大きさ、挿絵の活用、紙質、製本等については、適切に配慮されているか。	章ごとに色を統一し、学習している時代を捉えやすくしたり、ユニバーサルデザインに基づいた色調や文字を使用したりすることで、読みやすくなるよう配慮されている。	資料などを掲載する際に色彩のみではなく、線種・記号で区別したり、難しい漢字や固有名詞・歴史用語にふりがなを付けたりすることで、読みやすくなるよう配慮されている。	

観点		発行者	日 文	自由社
1 教育基本法の理念や長崎県教育方針の趣旨・内容を踏まえて、豊かな人間性の育成を図る上での特長				
(1)	教科の特質に応じて、「教育の目的」及び「教育の目標」の達成に資する内容、構成となっているか。		巻末の「『歴史との対話』を未来に活かす」で、災害、政治参加、世界平和の視点ごとに、先人の取組を踏まえて現代の課題を考えさせることで、よりよい未来を創造する態度を育むことができるよう配慮されている。	巻頭の「歴史を学ぶとは」やコラムで、歴史を学ぶ意義や日本の歴史の伝統を捉えさせることで、我が国の伝統・文化や自然に誇りや興味を持たせるよう配慮されている。
(2)	ふるさと長崎の伝統・文化や歴史、自然について理解を深める学習に生かせる題材が扱われているか。		元寇について、「鷹島神崎遺跡」が取り上げられ、詳しい解説や地図、写真が示されていたり、辛亥革命について、孫文を支援した「梅屋庄吉」が国際交流の視点で取り上げられていたりしている。	日本の近代産業発祥の地として長崎を取り上げ、資料や写真が示されていたり、原子爆弾の被害について、「焼き場に立つ少年」の写真や当時の証言の資料が取り上げられていたりしている。
2 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて、確かな学力の育成を図る上での特長				
(1)	基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得することができるよう工夫されているか。		本文では、基本用語を分かりやすく説明するとともに、編末の「まとめとふり返し」において、既習事項を年表や地図を用いて確認することで、基礎的・基本的な知識を習得することができるよう工夫されている。	章末の「復習問題のページ」で、重要語句の意味を確認したり、歴史的事象に係る場所を地図上に示したりすることで、基礎的・基本的な知識を習得することができるよう工夫されている。
(2)	知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されているか。		編末の「まとめとふり返し」で、構造的な表や年表にまとめさせたり、その時代の特色を文章にまとめ発表させたりすることで、思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されている。	章末の「時代の特徴を考えるページ」で「歴史用語ミニ辞典の作成」を設定したり、時代の特徴を対話形式で紹介したりすることで、思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されている。
(3)	主体的に学習に取り組む態度を身に付けることができるよう工夫されているか。		「学習のはじめに」「まとめとふり返し」「チャレンジ歴史」では、学習の流れをスモールステップで示すことで、主体的に学習に取り組み、各時代の特色を捉えることができるよう工夫されている。	毎時間設定する「チャレンジ」では、基礎的・基本的な学習内容に関する課題に加え、発展的な課題を示すことで、学びを深める新たな視点に気付かせ、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。
(4)	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせることができるよう工夫されているか		「歴史的な見方・考え方とは？」で、時系列、推移、比較、つながりの四つの視点による学習の進め方を提示することで、歴史的な見方・考え方を働かせることができるよう工夫されている。 見開きごとに、「見方・考え方」マークで学習課題を解決する手がかりを示すことで、歴史的な見方・考え方を働かせることができるよう工夫されている。	章末の「調べ学習のページ」の吹出して、歴史的事象に対する疑問や感想を提示することで、着目すべき視点を把握し、歴史的な見方・考え方を働かせることができるよう工夫されている。 章末の「時代の特徴を考えるページ」で、時代や人物を比較する方法や視点を示すことで、歴史的な見方・考え方を働かせることができるよう工夫されている。
(5)	既習事項を基に、生徒自身が設定した学習課題によって学びを深めることができるよう工夫されているか。		「歴史を掘り下げる」では、社会的事象や人物を詳しく紹介することで、それぞれの課題に応じて学びを深めることができるよう工夫されている。 「チャレンジ歴史」では、興味・関心を喚起するテーマを設定し資料を提示することで、学びを深めることができるよう工夫されている。	コラム「もっと知りたい」では、既習の歴史的事象や人物について詳しく紹介することで、課題に応じて学びを深めることができるよう工夫されている。 章末の「『ひとこと』作文」では、その時代の特色を示す語句を選び説明する学習を設定することで、時代を大観し、学びを深めることができるよう工夫されている。
(6)	我が国の歴史に対する愛情や、国際協調の精神を養うことができるよう工夫されているか。		「教科書の構成と学び方」では、「人物」や「各時代の女性」「先人に学ぶ」などのテーマごとにコラムや特設ページを設けて紹介することで、我が国の歴史に対する愛情を育むことができるよう工夫されている。 「歴史を掘り下げる」の特設ページで領土に関する問題を取り上げ、平和的な解決に向けた交渉の経緯や背景を紹介することで、国際協調の精神を養うことができるよう工夫されている。	「人物クローズアップ」では、日本の歴史上の人物について詳しく紹介することで、我が国の歴史に対する愛情を育むことができるよう工夫されている。 「もっと知りたい」「人物クローズアップ」「外の目から見た日本」では、日本と世界とのつながりに関するテーマを多く設定することで、国際協調の精神を養うことができるよう工夫されている。
3 学習効果や使いやすさ、見やすさ（ユニバーサルデザイン）等の観点からの表記・表現や体裁の特長				
(1)	文章は、分かりやすく、質・量ともに適切な記述となっているか。		全体的に平易な文章で分かりやすく、「基本用語」では、社会科の基礎・基本となる用語について丁寧に説明することで、文章の理解を深めることができるよう配慮されている。	人物や難解な用語にふりがなを付けたり、詳しい解説を記載したりすることで、文章の内容が分かりやすくなるよう配慮されている。
(2)	写真、挿絵、図表などは、学習意欲を高めるとともに、学習内容との関連や学習効果に十分配慮されているか。		「学習のはじめに」では、各時代の特色を比較できる資料、見開きページには「小年表」を掲載することで、学習意欲を高め、その時代の出来事の流れを捉えることができるよう配慮されている。	写真や絵画の一部を拡大して掲載したり、資料の番号を本文に記載したりすることで、視覚的に分かりやすく、学習効果を高めることができるよう配慮されている。
(3)	レイアウトや色彩、文字の大きさ、挿絵の活用、紙質、製本等については、適切に配慮されているか。		見開きごとの「時代・世紀のスケール」に学習している時代を色分けして示したり、年表を記載したりすることで、学習している時代や学習内容の時系列を捉えやすくなるよう配慮されている。	通し番号で学習内容を構成し、見開きの左下に「歴史モノサシ」を掲載することで、時代の位置付けを捉えやすくなるよう配慮されている。

Ⅲ 具体項目

社会（歴史）

観点		発行者	育鵬社	学び舎
1 教育基本法の理念や長崎県教育方針の趣旨・内容を踏まえて、豊かな人間性の育成を図る上での特長				
(1)	教科の特質に応じて、「教育の目的」及び「教育の目標」の達成に資する内容、構成となっているか。		世界の歴史を背景にして日本の歴史の大きな流れを捉えさせることで、世界史の視点からも我が国の歴史や伝統文化に対する理解を多面的・多角的に考察し、深めることができるよう配慮されている。	資料を見て推理や想像をさせたり、インタビューとなって歴史上の人物を取材したり、それらを意見交換させたりすることで、柔軟な発想力や創造性を培うことができるよう配慮されている。
(2)	ふるさと長崎の伝統・文化や歴史、自然について理解を深める学習に生かせる題材が扱われているか。		世界の宗教と日本との関わりについて、「浦上天主堂」が取り上げられていたり、元寇について、元軍の進路の地図中に「対馬」と「壱岐」が記されていたりしている。	原水爆禁止運動について、「増えつつけるヒバクシャ」のコラムで山口仙二氏が取り上げられていたり、現在の平和活動について、長崎の「高校生1万人署名活動」が紹介されていたりしている。
2 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて、確かな学力の育成を図る上での特長				
(1)	基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得することができるよう工夫されているか。		章のはじめの「鳥の目で見える○○」「虫の目で見える○○」で歴史の流れを把握させ、「学習のまとめ」で資料を用いて考えさせることで、基礎的・基本的な知識・技能を習得することができるよう工夫されている。	「歴史を体験する」で、絵画資料の読み取りやフィールドワーク、聞き取り調査など、調査活動の手順を具体的に示すことで、調査活動の技能を習得することができるよう工夫されている。
(2)	知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されているか。		「歴史ズームイン」では、豊富な資料から生徒に問いかける課題を設定し、追究させることで、思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されている。	「学習のまとめ」で、前の時代と比較して、特色の違いをまとめたり、歴史絵画を解説・推理して発表したりする活動を設定することで、思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されている。
(3)	主体的に学習に取り組む態度を身に付けることができるよう工夫されているか。		章のはじめに「鳥の目で見える○○」「虫の目で見える○○」を設定し、各時代の象徴的な資料を掲載することで、課題を意識して主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。	各項目のタイトルを興味・関心を高めるような表現にするとともに、「歴史を体験する」では、調べるテーマや体験の例を示すことで、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。
(4)	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせることができるよう工夫されているか		「見方・考え方を働かせる」で、歴史的な見方・考え方について紹介し、適宜「見方・考え方」コーナーで具体的な考察を促すことで、歴史的な見方・考え方を働かせることができるよう工夫されている。 各章末の「学習のまとめ」で、各時代の特徴を大観する問いを設け、文化や人々の暮らし等と関連付けて考えさせることで、歴史的な見方・考え方を働かせることができるよう工夫されている。	「第○章をふりかえる」では、単元で学習した歴史的な出来事の特徴や変化、他の出来事との関連などをまとめる課題を設定することで、歴史的な見方・考え方を働かせることができるよう工夫されている。 絵画や写真を基に学習課題を設定し、課題解決の視点を示すことで、歴史的な見方・考え方を働かせることができるよう工夫されている。
(5)	既習事項を基に、生徒自身が設定した学習課題によって学びを深めることができるよう工夫されているか。		「人物クロズアップ」「歴史ビュー」のコーナーでは、歴史的な事象や人物を詳しく紹介することで、設定した学習課題によって学びを深めることができるよう工夫されている。 「歴史ズームイン」では、歴史上の人物や出来事を多角的な視点を交えて紹介することで、歴史の学習への興味・関心を高め、設定した学習課題によって学びを深めることができるよう工夫されている。	各時代の学習のまとめにおいて、ゲームや思考ツールの活用、イラストや説明文の作成、発表会の実施など、段階的に多様な学習方法を示すことで、自ら学びを深めることができるよう工夫されている。 「フォーカス」では、歴史上の出来事やエピソードについて詳細に説明することで、設定した学習課題によって学びを深めることができるよう工夫されている。
(6)	我が国の歴史に対する愛情や、国際協調の精神を養うことができるよう工夫されているか。		「日本の美の形」で、各時代の代表的文化を写真で紹介したり、「歴史ズームイン」で日本の神話や伝統、文化を多数紹介したりすることで、我が国の歴史に対する愛情を育むことができるよう工夫されている。 世界の歴史的な事象について日本との関連を示し、他民族の文化や生活に関心をもち、国際協調の精神を養うことができるよう工夫されている。	毎時間の学習において、史跡や伝統、文化などを詳細に取り上げ、当時の社会状況や人々の考え方や営みを具体的に紹介することで、我が国の歴史に対する愛情を育むことができるよう工夫されている。 第二次世界大戦の章では、「フォーカス」やコラムによって当時の様子や証言などを詳しく紹介することで、平和について考えを深め、国際協調の精神を養うことができるよう工夫されている。
3 学習効果や使いやすさ、見やすさ（ユニバーサルデザイン）等の観点からの表記・表現や体裁の特長				
(1)	文章は、分かりやすく、質・量ともに適切な記述となっているか。		本文の文字を大きくしたり、さまざまな歴史的な事象の意味や意義、事象間のつながりを平易な言葉で記述したりすることで、分かりやすくなるよう配慮されている。	分かりやすい文章で、本文や解説にふりがなを付けたら、太字の語句を使用しないようにしたりすることで、読みやすくなるよう配慮されている。
(2)	写真、挿絵、図表などは、学習意欲を高めるとともに、学習内容との関連や学習効果に十分配慮されているか。		資料を読み解く際の「見方・考え方」を提示することで、資料を的確に分析したり、複数の資料を比較・関連付けたりするなど、学習効果を高めることができるよう配慮されている。	各章の導入などで、生徒の興味を引く写真や資料を大きく取り上げたり、巻末の年表を写真や図表を取り入れた詳しい内容としたりすることで、学習効果を高めることができるよう配慮されている。
(3)	レイアウトや色彩、文字の大きさ、挿絵の活用、紙質、製本等については、適切に配慮されているか。		章ごとに資料の背景色を統一したり、グラフには凡例を使用せず図中に直接示したり、また、地図では色分けだけでなく斜線を入れることで、色以外の情報からでも読み取りやすくなるよう配慮されている。	淡い色合いを基調とした配色で、カラーユニバーサルデザインに配慮したり、学習の導入となる見開き左側のページには大きな絵や写真を配置したりすることで、読み取りやすくなるよう配慮されている。

観点 発行者		令 書	
1 教育基本法の理念や長崎県教育方針の趣旨・内容を踏まえて、豊かな人間性の育成を図る上での特長			
(1)	教科の特質に応じて、「教育の目的」及び「教育の目標」の達成に資する内容、構成となっているか。	冒頭で「この教科書の課題」を記載したり、日本の神話や文献史料を掲載したりすることで、我が国の伝統と文化を尊重する態度を養うことができるよう配慮されている。	
(2)	ふるさと長崎の伝統・文化や歴史、自然について理解を深める学習に生かせる題材が扱われているか。	島原・天草一揆について、「天草四郎」の絵と人物紹介が取り上げられていたり、日本の産業革命について、「長崎造船所のハンマーヘッドクレーン」と「端島炭鉱」が紹介されていたりしている。	
2 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて、確かな学力の育成を図る上での特長			
(1)	基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得することができるよう工夫されているか。	章のはじめに、年表による主な出来事の確認とその時代の特徴を示すことで、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得することができるよう工夫されている。	
(2)	知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されているか。	章末の「まとめ学習」で、重要語句を年表にまとめる活動とともに、時代の考察やディベート、ディスカッションなどの手順を示すことで、思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されている。	
(3)	主体的に学習に取り組む態度を身に付けることができるよう工夫されているか。	古代や中世などの文献資料のほか、コラムを多数掲載することで、興味・関心を高め、学習内容の理解を深め、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。	
(4)	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせることができるよう工夫されているか	「歴史的な見方・考え方」では、年代と時系列、推移、比較などの視点について紹介することで、歴史的な見方・考え方を働かせることができるよう工夫されている。 本文内容ごとに「課題」を問いの形で示すことで、学習内容の考察に向かう歴史的な見方・考え方を働かせることができるよう工夫されている。	
(5)	既習事項を基に、生徒自身が設定した学習課題によって学びを深めることができるよう工夫されているか。	章の冒頭に学習内容を示す年表と政治、外交、文化、産業の各分野ごとに学習課題となる問いを示すことで、設定した学習課題によって学びを深めることができるよう工夫されている。 章の終末に各時代の政治、外交、文化、産業の各分野についてのまとめのページを設け、章の冒頭の学習課題となる問いと対応させることで、学びを深めることができるよう工夫されている。	
(6)	我が国の歴史に対する愛情や、国際協調の精神を養うことができるよう工夫されているか。	冒頭の「この教科書の課題」では、我が国の歴史が長きにわたることを紹介し、その理由を問うことで、我が国の歴史に対する愛情を育むことができるよう工夫されている。 コラムで「トルコと日本の意外なつながり」「ユダヤ難民を救った二人の日本人」を取り上げることで、国際協調の精神を養うことができるよう工夫されている。	
3 学習効果や使いやすさ、見やすさ（ユニバーサルデザイン）等の観点からの表記・表現や体裁の特長			
(1)	文章は、分かりやすく、質・量ともに適切な記述となっているか。	さまざまな資料や学説を基にした詳しい内容を平易な文章でまとめることで、より分かりやすく歴史を学ぶことができるよう配慮されている。	
(2)	写真、挿絵、図表などは、学習意欲を高めるとともに、学習内容との関連や学習効果に十分配慮されているか。	天皇家や将軍家の関係図、古代や中世の文献資料を多く掲載することで、関心・意欲を高めることができるよう配慮されている。	
(3)	レイアウトや色彩、文字の大きさ、挿絵の活用、紙質、製本等については、適切に配慮されているか。	右綴じで本文を2段の縦書きに配置するとともに、巻末に「巻末資料」「日本美術図鑑」として地図や写真などの資料をカラーで大きくまとめて、配置することで、読み取りやすくなるよう配慮されている。	